

2020年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2020年4月10日修正）

※今年度は、新型コロナウイルスのため、どの授業も現地調査（フィールドワーク）が実施できない可能性があり、3月公開の内容から変更されています。

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
佐藤哲夫	C	都市景観の調査	地域性を表象する都市景観について、景観計画に関する文献や地理学の論文から学び、横浜市の関内・山手地区内の小地域を対象として、地図・統計・地誌等の利用と、可能なら現地調査で、報告書を作成する。現地調査を行なう場合は、個人か少人数の班に分かれて休日・夏休み等に行なう。	水・2

地域文化調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小田匡保	A	宗像市の人文地理（農業・商業・観光など）	福岡県宗像市	10月（3泊4日）	宗像市に関する統計の分析、地図の読み取り、文献の講読の後、グループで調査テーマを決めて、現地調査（聞き取り・観察など）を行なう。現地調査後は報告書を作成する。現地調査がむずかしい場合は、後期は、東京周辺の日帰り可能地域で景観観察調査を行なう。	水・5
橋詰直道	B	地方都市の自立と地域振興	地方都市（候補地例）高知県四万十市、変更・中止の可能性も	9月12日～15日（3泊4日）の予定だが、実施できない可能性も	地方都市中村市を事例に、例えば地場産業と観光、移住支援、防災とコミュニティなど、班に分けて現地調査し、地方都市の自立と地域振興、まちづくりを考える。9月の現地調査までは、人文地理学の文献調査と選んだ文献のレビュー発表、現地調査中は毎夜レポート、終了後まとめレポート提出と発表、その後は各自調査報告書用の原稿提出（6回以上書き直しとなる）。12月報告書完成と班別発表を行う。積極的に参加する者に限る。現地調査が実施できない場合は、後期も文献レビュー発表を続け、日曜日帰り巡検を複数回行うことで替える。	火・4
須山 聡	D	集落点検の実践	奄美大島宇検村屋鈍・阿室集落	7月3日（金）～9日（木）	地域調査の計画立案・現地調査・報告書の作成を実習する。今年度は奄美大島宇検村の阿室集落と屋鈍集落を対象に「集落点検」を実施する。集落点検は、集落の維持・存続のための有効な具体案を住民との協働のワークショップによって考える、地理学の実践の場である。これまで、提案した内容のいくつかは実行され、集落に新たな活気をもたらしている。集落点検が予定どおり実施できない場合は、後期における実施を検討する。	水・3
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県栄村と周辺地域	後期に再検討	状況が許せば、少子高齢化の進む山間集落でフィールドワークを行なう。班ごとに調査テーマを設定し、事前準備や文献レビューから報告書作成まで取り組む。主なテーマは、自然を活かした暮らしの特徴と変容、農産物のブランド化、都市・農村交流、地域おこし協力隊など。	月・3

地域調査入門（2, 3, 4年選択）両専攻共通

教員名	記号	入門テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小野映介	A	平安京以前と以後の地形環境と人々の暮らし	京都府、京都市	6月下旬（2泊3日）	京都盆地の地形環境に注目して、先史・歴史時代における人々の土地利用の在り方の痕跡を探る。特に、平安京以前と以降の地形環境と人々の暮らしについて、フィールドワークを通じて理解することを目的とする。ただし、フィールドワークが不可能な場合は、絵図や地図の自然地理学的な見方を学ぶ。	前期金・4
須山 聡	B	豊年祭の参与観察	奄美大島宇検村佐念集落	8月7日（金）～10日（月）	奄美大島宇検村佐念集落で旧暦8月15日に開催される年中行事である「豊年祭」を参与観察し、行事の運営や参加者の行動を記録する。佐念は人口30人あまりの小さな集落であり、豊年祭の準備・実行の人手が足りない。単に祭を見物するのではなく、豊年祭の担い手としての役割が期待される。住民のみならずとも豊年祭に関わることで、集落の維持・存続に関する知見を得る。今年は豊年祭が中止されることもあり得る。	後期木・3
佐藤哲夫	C	地域観光を企画する	東京都内または神奈川県内	5～6月の休日	地域観光について観光研究の文献を通じて学び、地域観光の資源と企画に関するレポートを作成する。可能なら少人数でエコツアーを体験する。	前期月・5
平井幸弘	E	ジオパークにおける自然地理学の視点	鹿児島県桜島地域	11月初・中旬に	日本ジオパーク認定地である桜島・錦江湾を中心に、火山地形や過去の災害、現在の防災、さらには地域資源を活かしたツーリズムなどに関して、関係機関・団体・個人を訪ね、さらに地形調査、水文調査、植生調査、景観調査などを実施する。	後期火・4
田中 靖	F	身近な自然	関東地域	週末（土曜日）に複数回	自然地理学の現地調査ではどのような視点で景観を観察しているのかを学ぶ、入門編の調査実習。事前学習（データ分析・地図作成など）と週末（主に土曜日）日帰り巡検を複数回行う。今年度は荒川流域に特に力を入れる予定。巡検地は話し合いによって決定する。現地調査が難しい場合には、GISによるデータ分析講座とする。	前期土・2

地域環境演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
鈴木重雄	C	植生・生態環境の地域特性	地域の植生・生態系を取り扱った論文の講読を中心とする。特に、関東平野とその周囲でみられる、植生の垂直分布、隔離分布や都市生態系の諸問題に関する文献の講読を担当者を決めて行う。併せて、10月中旬に実際に文献で紹介されている場所（筑波山、奥多摩、房総半島、箱根外輪山のいずれか）において、1泊2日ないし2泊3日の現地調査をおこない調査手法の実践と結果のとりまとめを行う。	火・4

地域環境調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
江口 卓	A	屋久島の自然と環境保全	鹿児島県屋久島町	10月または11月を予定	前半は、屋久島の気候についてテーマを決め、気候データの解析を中心に進めます。後半は、屋久島の自然と環境問題について調べたうえで、現地調査を行います。最後に、全部の調査結果を報告書としてまとめます。	水・4
鈴木秀和	B	浅間山北麓の自然とそれを活かした地域振興	群馬県長野原町・嬭恋村周辺	9月中旬～11月上旬（3泊4日）	浅間山北麓の自然環境（地形・植生・湧水・温泉等）について主に調査するが、それを活用した地域振興や防災などの取り組みについても調査する予定。なお、現地調査へ行けないときは、文献講読を中心に、火山地域における過去の災害や防災、自然環境の成り立ちやそれを活かしたツーリズムなどについて学習してもらう予定です。	水・2
田中 靖	D	喜界島の自然地理	鹿児島県・喜界島	10月中旬に3泊4日の予定	喜界島の地形形成および人と自然の関わり合いについて、自然地理学的な視点からの調査を行う。調査実習は班別にテーマを決めて実施。取り扱うテーマは、①段丘地形、②サンゴ礁、③地殻変動、④土壌、⑤植生、⑥水/水利用、⑦集落、⑧ドローン測量、など。喜界島での実習が難しい場合には、場所と方法を変更して上記のテーマについて研究する。	月・3
平井幸弘	E	河川下流・内湾域の環境問題とワイスユース	高知県高知平野	10月初・中旬に3泊4日	高知平野を中心に、仁淀川、鏡川・浦戸湾、および物部川の水辺をめぐる災害や環境問題、地域資源の持続的利用などに関して、地形、水文、植生、景観調査、またしかるべき機関、団体、個人を対象に聞き取り調査や質問票調査を実施する。	水・4
小野映介	F	港町那覇と城下町首里の自然環境と土地利用変遷	沖縄県、那覇市	10月下旬（3泊4日）	港町起源の那覇と城下町起源の首里を対象として、自然環境（地形・地質・水文）と土地利用変遷の関連を明らかにする。ただし、フィールドワークが不可能な場合は、絵図や地図の自然地理学的な見方を学ぶ。	水・4

※地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。履修希望者が多い場合は、人数を調整することがあります。